

⑧ 保健体育問題の解答について (注意)

1. 解答はすべて、別紙のマークシートに記入すること。
2. マークシートは、電算処理するので、折り曲げたり、汚したりしないこと。また、マーク欄はもちろん、余白にも不要なことを書かないこと。
3. 記入は、HBまたはBの鉛筆を使って、ていねいに正しく行うこと。(マークシート右上の記入方法を参照) 消去は、プラスチック消しゴムで念入りに行うこと。
4. 名前の記入 名前を記入すること。
5. 教科名の記入 教科名に「保健体育」と記入すること。
6. 受験番号の記入 受験番号欄に5けたの数で記入したのち、それをマークすること。
7. 解答の記入 ア. 小問の解答番号は1から60までの通し番号になっており、例えば、25番を

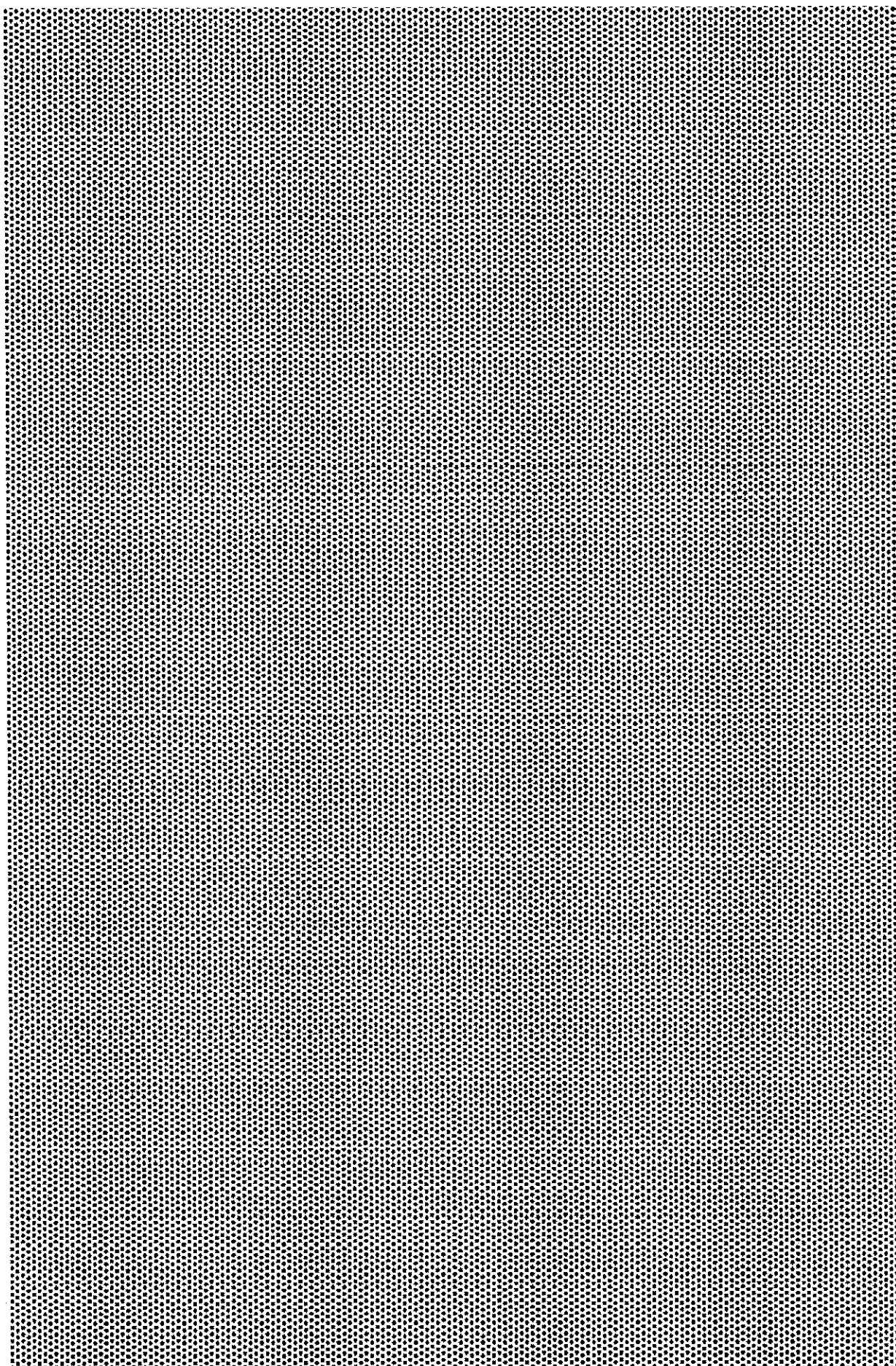
25

 のように表示してある。
イ. マークシートのマーク欄は、すべて1から0まで10通りあるが、各小問の選択肢は必ずしも10通りあるとは限らないので注意すること。
ウ. どの小問も、選択肢には①、②、③……の番号がついている。
エ. 各問いに対して一つずつマークすること。

(マークシート記入例)

フリガナ	ユウ ベ タロウ	教科名	保健体育
名 前	神 戸 太 郎		

受験番号						小問番号	解答記入欄	小問番号	解答記入欄	小問番号	解答
							[1] - [25]		[26] - [50]		[51]
/	2	3	4	0		1	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☒ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	26	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	51	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3
☒ 0	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	2	☐ 0 ☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	27	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	52	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3
☒ 0	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	3	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☒ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	28	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	53	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3
☐ 0	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	4	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☒ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	29	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	54	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3
☐ 0	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	5	☐ 0 ☒ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	30	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	55	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3
☐ 0	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	6	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	31	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	56	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3
☐ 0	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	7	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	32	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	57	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3
☐ 0	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	8	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	33	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	58	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3
☐ 0	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	9	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	34	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	59	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3
☐ 0	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	10	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	35	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	60	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3
☐ 0	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	11	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	36	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9	61	☐ 0 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3



【1】 次の問いに答えよ。

(1)「小学校(中学校)学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編」における「第2章 道徳教育の目標」に関する記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。なお、文中に「児童」とあるのは、中学校・特別支援学校中等部では「生徒」に読み替えなさい。

- ① 学校における道徳教育は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする教育活動であり、社会の変化に対応しその形成者として生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割をもっている。
- ② 道徳科が目指すものは、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同様によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。
- ③ 道徳科の授業では、道徳教育の目指す方向に合致する場合には、特定の価値観を児童に指導したり、指示に基づいて行動するよう指導したりすることも考えられる。
- ④ 道徳的価値とは、よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるものである。
- ⑤ 道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳性を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲と態度を養うことを求めている。

- (2) 次の文は、「小学校（中学校）学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」における「第3章 道徳科の内容」の記述の一部である。（ア）～（エ）にあてはまる適切な語句の組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

小学校

〔規則の尊重〕

〔第1学年及び第2学年〕

約束や（ア）を守り、みんなが使う物を大切にすること。

〔第3学年及び第4学年〕

約束や社会の（ア）の意義を理解し、それらを守ること。

〔第5学年及び第6学年〕

法や（ア）の意義を理解した上で進んでそれらを守り、（イ）を大切にし、（ウ）を果たすこと。

〔公正、公平、社会正義〕

〔第1学年及び第2学年〕

自分の好き嫌いにとらわれないで接すること。

〔第3学年及び第4学年〕

誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。

〔第5学年及び第6学年〕

誰に対しても（エ）をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。

中学校

〔遵法精神、公德心〕

法や（ア）の意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、（イ）を大切にし、（ウ）を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

〔公正、公平、社会正義〕

正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、（エ）や偏見のない社会の実現に努めること。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-------|---|----|---|-----|
| ① | ア | きまり | イ | 自他の権利 | ウ | 責任 | エ | いじめ |
| ② | ア | きまり | イ | 自他の権利 | ウ | 義務 | エ | 差別 |
| ③ | ア | きまり | イ | 国民の権利 | ウ | 責任 | エ | 差別 |
| ④ | ア | 平和 | イ | 自他の権利 | ウ | 義務 | エ | いじめ |
| ⑤ | ア | 平和 | イ | 国民の権利 | ウ | 責任 | エ | 差別 |

- (3) 次の文は、「小学校(中学校)学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編」における「第5章 道徳科の評価」に関する記述の一部である。(ア)～(ウ)にあてはまる適切な語句の組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。なお、文中に「児童」とあるのは、中学校・特別支援学校中等部では「生徒」に読み替えなさい。

道徳性の評価の基盤には、教師と児童との人格的な触れ合いによる(ア)な理解が存在することが重要である。その上で、児童の成長を見守り、努力を認めたり、励ましたりすることによって、児童が自らの成長を(イ)、更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価を目指すことが求められる。なお、道徳性は、極めて多様な児童の人格全体に関わるものであることから、評価に当たっては、(ウ)の成長の過程を重視すべきである。

- | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|
| ① | ア | 相互的 | イ | 実感し | ウ | 心身 |
| ② | ア | 共感的 | イ | 喜び | ウ | 心身 |
| ③ | ア | 相互的 | イ | 喜び | ウ | 個人内 |
| ④ | ア | 共感的 | イ | 実感し | ウ | 個人内 |
| ⑤ | ア | 共感的 | イ | 喜び | ウ | 個人内 |

【2】「中学校学習指導要領解説 保健体育編」（平成29年7月 文部科学省）に関する内容について、次の問いに答えよ。

(1) 次の文は、「保健体育科改訂の趣旨」に関する記述の一部である。文中の（ア）～（ウ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

「体育科、保健体育科における（ア）については、これまでも心と体を一体としてとらえ、自己の運動や健康についての（イ）の解決に向け、積極的・自主的・主体的に学習することや、仲間と（ウ）し協力して（イ）を解決する学習等を重視してきた。これらを引き続き重視するとともに、体育科、保健体育科で育成を目指す『知識・技能』、『思考力・判断力・表現力等』、『学びに向かう力・人間性等』の三つの資質・能力を確実に身に付けるために、その関係性を重視した（ア）を工夫する必要がある。」としている。

- ① ア 学習過程 イ 課題 ウ 対話
- ② ア 学習過程 イ 問題 ウ 対話
- ③ ア 学習過程 イ 課題 ウ 連携
- ④ ア 教育課程 イ 問題 ウ 対話
- ⑤ ア 教育課程 イ 課題 ウ 連携

4

(2) 次の文は、「保健体育科改訂の要点」に関する記述の一部である。文中の（ア）～（ウ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

体育については、体育分野において育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する観点から、運動に関する「知識及び技能」（中学校段階以降の知識では、運動の成り立ちや（ア）につながる知識等も含む）、運動課題の発見・解決等のための「思考力、判断力、表現力等」、主体的に学習に取り組む態度等の「学びに向かう力、人間性等」に対応した内容を示すこととした。その際、児童生徒の発達の段階を踏まえて、学習したことを（イ）に生かすとともに（ウ）につなげ、豊かなスポーツライフを継続することができるよう、小学校、中学校、高等学校を通じた系統性を踏まえて、引き続き指導内容の体系化を図ることを重視した。

- ① ア 多様な楽しみ方 イ 家庭生活や実生活 ウ 運動の日常化
- ② ア 多様なかわり方 イ 実生活や実社会 ウ 運動の日常化
- ③ ア 多様なかわり方 イ 家庭生活や実生活 ウ 運動の習慣化
- ④ ア 多様なかわり方 イ 実生活や実社会 ウ 運動の習慣化
- ⑤ ア 多様な楽しみ方 イ 実生活や実社会 ウ 運動の習慣化

5

- (3) 次の文は、「保健体育科改訂の要点」に関する記述の一部である。文中の（ア）～（ウ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

豊かなスポーツライフの実現を重視し、スポーツとの多様な関わり方を楽しむことができるようにする観点から、体力や技能の程度、（ア）や障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう、（イ）を踏まえて指導内容を示すこととした。

また、「内容の取扱い」及び「指導計画の作成と内容の取扱い」に、生徒が選択して履修できるようにすることや、体力や技能の程度、（ア）や障害の有無等にかかわらず運動やスポーツを楽しむことができるようにすることを示すとともに、（ウ）に応じた配慮の例を示した。

- | | | | | | | |
|---|---|----|---|-----------|---|--------|
| ① | ア | 性別 | イ | 共生の視点 | ウ | 生徒の技能差 |
| ② | ア | 性別 | イ | 共生の視点 | ウ | 生徒の困難さ |
| ③ | ア | 体格 | イ | 共生の視点 | ウ | 生徒の技能差 |
| ④ | ア | 体格 | イ | アダプテッドの視点 | ウ | 生徒の困難さ |
| ⑤ | ア | 性別 | イ | アダプテッドの視点 | ウ | 生徒の困難さ |

6

- (4) 次の文は、「保健体育科改訂の要点」に関する記述の一部である。文中の（ア）～（ウ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

年間指導計画で配当した単元ごとの指導計画を作成する際、資質・能力の三つの柱の具体的な指導内容を計画的に配当し、学習指導要領の趣旨を踏まえた指導を充実することが大切である。体育分野においては、中学校第1学年及び第2学年においては全ての領域を学ぶこととなるため、2年間の（ア）をもって、効率的で（イ）な指導と評価の計画を作成することが必要である。第3学年においては、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培う観点から、複数教員配置校においては、生徒が選択して学習ができるよう配慮することや、単数教員配置校においては、生徒の希望ができる限り可能となる教育課程編成の工夫が求められる。保健分野においては、生涯にわたって心身の健康を保持増進する資質・能力を育成する観点から、授業時数は、3学年間を通じて適切に配当するとともに、体育分野との関連はもちろん、健康に関する指導に関わる教科等や（ウ）との連携を図るなどの教育課程編成の工夫が求められる。

- | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|------|
| ① | ア | 系統性 | イ | 効果的 | ウ | 学級活動 |
| ② | ア | 見通し | イ | 緻密 | ウ | 個別指導 |
| ③ | ア | 見通し | イ | 効果的 | ウ | 個別指導 |
| ④ | ア | 見通し | イ | 効果的 | ウ | 学級活動 |
| ⑤ | ア | 系統性 | イ | 緻密 | ウ | 個別指導 |

7

- (5) 次の文は、「保健体育科の目標及び内容」における、教科の目標についての記述の一部である。文中の（ア）～（ウ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び（ア）における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての（イ）の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく（ウ）生活を営む態度を養う。

- ① ア 社会生活 イ 自他 ウ 活力ある
- ② ア 社会生活 イ 自己 ウ 豊かな
- ③ ア 個人生活 イ 自己 ウ 豊かな
- ④ ア 個人生活 イ 自他 ウ 豊かな
- ⑤ ア 個人生活 イ 自他 ウ 活力ある

8

- (6) 次の文は、「保健体育科の目標及び内容」における、保健分野の見方・考え方についての記述の一部である。文中の（ア）～（ウ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

保健分野においては、社会の変化に伴う現代的な健康に関する課題の出現や、情報化社会の進展により様々な健康情報の入手が容易になるなど、環境が大きく変化している中で、生徒が生涯にわたって正しい健康情報を選択したり、健康に関する課題を適切に解決したりすることが求められる。その際、保健の見方・考え方に示されたように、保健に関わる（ア）を根拠としたり活用したりして、疾病等のリスクの軽減や（イ）の向上、さらには健康を支える環境づくりを目指して、（ウ）や課題解決に主体的に取り組むことができるようにすることが必要である。保健の見方・考え方にはそのような意図が込められている。

- ① ア 原則や概念 イ 生活の質 ウ 情報選択
- ② ア 原則や概念 イ 生活の質 ウ 意思決定
- ③ ア 基本原則 イ 生活習慣 ウ 情報選択
- ④ ア 基本原則 イ 生活習慣 ウ 意思決定
- ⑤ ア 基本原則 イ 生活の質 ウ 情報選択

9

- (7) 次の文は、「保健体育科の目標及び内容」における、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力についての記述の一部である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力とは、体育を通して培う(ア)な目標を示したものである。この資質・能力とは、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを味わおうとする(イ)な態度、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲や健康・安全への態度、運動を合理的に実践するための運動の技能や知識、それらを活用するなどの思考力、判断力、表現力等を指している。これらの資質・能力を育てるためには、体を動かすことが、情緒面や(ウ)な発達を促し、集団的活動や身体表現などを通してコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動などを通して(エ)を育むことにも資することを踏まえ、運動の楽しさや喜びを味わえるような基本的な運動の技能や知識を確実に身に付けるとともに、それらを活用して、自他の運動の課題を解決するなどの学習をバランスよく行うことが重要である。

- | | | | | |
|---|-------|-------|-------|----------|
| ① | ア 総合的 | イ 主体的 | ウ 健康的 | エ 情報活用能力 |
| ② | ア 包括的 | イ 主体的 | ウ 知的 | エ 論理的思考力 |
| ③ | ア 総合的 | イ 自主的 | ウ 健康的 | エ 論理的思考力 |
| ④ | ア 包括的 | イ 自主的 | ウ 知的 | エ 論理的思考力 |
| ⑤ | ア 包括的 | イ 自主的 | ウ 知的 | エ 情報活用能力 |

10

- (8) 次の文は、「指導計画の作成と内容の取扱い」における、言語活動についての記述の一部である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

体育分野においては、学習した運動に関わる(ア)や運動に伴う事故の防止等の(イ)な知識や技能を基に、自己や仲間の課題に応じて思考し判断したことなどを、言葉や文章及び(ウ)などで表したり、仲間や教師などに理由を添えて伝えたりする機会を(エ)することが重要である。

- | | | | | |
|---|--------|-------|---------|------|
| ① | ア 種目特性 | イ 基本的 | ウ 動作 | エ 設定 |
| ② | ア 一般原則 | イ 科学的 | ウ ICT機器 | エ 確保 |
| ③ | ア 一般原則 | イ 科学的 | ウ 動作 | エ 確保 |
| ④ | ア 一般原則 | イ 基本的 | ウ 動作 | エ 設定 |
| ⑤ | ア 種目特性 | イ 科学的 | ウ ICT機器 | エ 確保 |

11

- (9) 次の文は、「指導計画の作成と内容の取扱い」における、健やかな体についての記述の一部である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

学校における体育・健康に関する指導を、生徒の発達の段階を考慮して、学校の(ア)を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に、学校における(イ)の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科、技術・家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また、それらの指導を通して、家庭や(ウ)との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で(エ)を送るための基礎が培われるよう配慮すること。

- | | | | |
|--------------|--------|---------|----------|
| ① ア 教育活動全体 | イ 食育 | ウ 教育委員会 | エ 活力ある生活 |
| ② ア 年間教育計画全体 | イ 健康教育 | ウ 地域社会 | エ 安心した生活 |
| ③ ア 年間教育計画全体 | イ 食育 | ウ 教育委員会 | エ 安心した生活 |
| ④ ア 年間教育計画全体 | イ 健康教育 | ウ 地域社会 | エ 活力ある生活 |
| ⑤ ア 教育活動全体 | イ 食育 | ウ 地域社会 | エ 活力ある生活 |

(10) 次の文は、「指導計画の作成と内容の取扱い」における、障害のある生徒などへの配慮の例の一部である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ・見えにくさのため活動に制限がある場合には、不安を軽減したり安全に実施したりすることができるよう、(ア)や動きを事前に確認したり、仲間同士で声を掛け合う方法を事前に決めたり、音が出る用具を使用したりするなどの配慮をする。
- ・身体の動きに制約があり、活動に制限がある場合には、生徒の実情に応じて仲間と積極的に活動できるよう、用具やルールの変更を行ったり、それらの変更について仲間と話し合う活動を行ったり、必要に応じて(イ)の活用を図ったりするなどの配慮をする。
- ・リズムやタイミングに合わせて動くことや複雑な動きをすること、ボールや用具の操作等が難しい場合には、動きを理解したり、自ら積極的に動いたりすることができるよう、動きを視覚的又は言語情報に変更したり(ウ)したりして提示する、動かす体の部位を意識させる、操作が易しい用具の使用や用具の大きさを工夫したりするなどの配慮をする。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|-----|
| ① | ア | 活動場所 | イ | 補助用具 | ウ | 簡素化 |
| ② | ア | 活動場所 | イ | 補助用具 | ウ | 標準化 |
| ③ | ア | 活動場所 | イ | 補助者 | ウ | 簡素化 |
| ④ | ア | 活動計画 | イ | 補助用具 | ウ | 標準化 |
| ⑤ | ア | 活動計画 | イ | 補助者 | ウ | 簡素化 |

【3】「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成30年7月 文部科学省)に関する内容について、次の問いに答えよ。

(1) 次の文は、「保健体育科の目標」についての記述の一部である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを(ア)するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び(イ)における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての(ウ)の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって(ア)して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

- | | | | | | | |
|---|---|----|---|------|---|-------|
| ① | ア | 継続 | イ | 社会生活 | ウ | 自他や社会 |
| ② | ア | 継続 | イ | 個人生活 | ウ | 自他や社会 |
| ③ | ア | 持続 | イ | 社会生活 | ウ | 自己や地域 |
| ④ | ア | 継続 | イ | 個人生活 | ウ | 自己や地域 |
| ⑤ | ア | 持続 | イ | 個人生活 | ウ | 自他や社会 |

14

(2) 次の文は、「体育」の「性格」についての記述の一部である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

スポーツの意義は、人生をより豊かにし、充実したものとするとともに、人間の身体的・精神的な(ア)にこたえる世界共通の(イ)の一つであることにある。心身の両面に影響を与えるこの文化としてのスポーツは、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは、極めて大きな(ウ)を有している。

- | | | | | | | |
|---|---|----|---|--------|---|----|
| ① | ア | 成長 | イ | 人類の文化 | ウ | 役割 |
| ② | ア | 成長 | イ | 普遍的な文化 | ウ | 意義 |
| ③ | ア | 欲求 | イ | 人類の文化 | ウ | 役割 |
| ④ | ア | 欲求 | イ | 人類の文化 | ウ | 意義 |
| ⑤ | ア | 欲求 | イ | 普遍的な文化 | ウ | 役割 |

15

- (3) 次の文は、「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」における、運動の多様な楽しみ方についての記述の一部である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成に向けては、体力や技能の程度、性別や(ア)等にかかわらず、運動やスポーツとの多様な関わり方を状況に応じて(イ)し、卒業後も継続して実践することができるようにすることが重要である。

体力や技能の程度及び性別の違い等にかかわらず、仲間とともに学ぶ体験は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた重要な学習の機会であることから、原則として(ウ)で学習を行うことが求められる。その際、心身ともに発達が著しい時期であることを踏まえ、運動種目によってはペアやグループの(エ)に配慮したり、健康・安全に関する指導の充実を図ったりするなど、指導方法の工夫を図ることが大切である。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|----|---|------|---|-----|
| ① | ア | 障害の有無 | イ | 選択 | ウ | 男女共習 | エ | 編成時 |
| ② | ア | 障害の程度 | イ | 判断 | ウ | 必修 | エ | 構成 |
| ③ | ア | 障害の程度 | イ | 判断 | ウ | 男女共習 | エ | 構成 |
| ④ | ア | 障害の程度 | イ | 選択 | ウ | 男女共習 | エ | 編成時 |
| ⑤ | ア | 障害の有無 | イ | 選択 | ウ | 必修 | エ | 編成時 |

【4】保健分野に関する内容について、次の問いに答えよ。

- (1) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における、感染症の予防についての記述の一部である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

エイズ及び性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていることから、それらの疾病概念や感染経路について理解できるようにする。また、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることを理解できるようにする。例えば、エイズの病原体は(ア)であり、その主な感染経路は(イ)であることから、感染を予防するには(イ)をしないこと、(ウ)を使うことなどが有効であることにも触れるようにする。

なお、指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の(エ)を得ることなどに配慮することが大切である。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-------------|---|------|---|-------|---|----|
| ① | ア | ヒト免疫不全ウイルス | イ | 性的接触 | ウ | ピル | エ | 理解 |
| ② | ア | ヒト免疫不全ウイルス | イ | 性交 | ウ | コンドーム | エ | 協力 |
| ③ | ア | ヒト免疫不全ウイルス | イ | 性的接触 | ウ | コンドーム | エ | 理解 |
| ④ | ア | 後天性免疫不全ウイルス | イ | 性的接触 | ウ | ピル | エ | 理解 |
| ⑤ | ア | 後天性免疫不全ウイルス | イ | 性交 | ウ | コンドーム | エ | 協力 |

- (2) 次の文は、「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成30年7月 文部科学省)における、精神疾患の予防と回復についての記述の一部である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

精神疾患の予防と回復には、身体健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、(ア)を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクセーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であることを理解できるようにする。

また、心身の不調時には、不安、(イ)、焦燥、不眠などの精神活動の変化が、通常時より強く、(ウ)に生じること、心身の不調の早期発見と治療や支援の早期の開始によって回復可能性が高まることを理解できるようにする。その際、自殺の背景にはうつ病をはじめとする精神疾患が存在することもあることを理解し、できるだけ早期に(エ)に援助を求めることが有効であることにも触れるようにする。

- | | | | | |
|---|------------|--------|-------|-------|
| ① | ア 規則正しい生活 | イ ストレス | ウ 持続的 | エ 専門家 |
| ② | ア 調和のとれた生活 | イ ストレス | ウ 継続的 | エ 家族 |
| ③ | ア 規則正しい生活 | イ 抑うつ | ウ 継続的 | エ 専門家 |
| ④ | ア 調和のとれた生活 | イ 抑うつ | ウ 持続的 | エ 専門家 |
| ⑤ | ア 調和のとれた生活 | イ ストレス | ウ 持続的 | エ 家族 |

18

- (3) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における、自然災害による傷害の防止についての記述の一部である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

自然災害による傷害は、例えば、地震が発生した場合に家屋の倒壊や家具の落下、転倒などによる危険が原因となって生じること、また、地震に伴って発生する、津波、土砂崩れ、(ア)、火災などの(イ)によっても生じることが理解できるようにする。

自然災害による傷害の防止には、日頃から災害時の安全の確保に備えておくこと、(ウ)を含む災害情報を正確に把握すること、地震などが発生した時や発生した後、周囲の状況を的確に判断し、自他の安全を確保するために冷静かつ迅速に行動する必要があることを理解できるようにする。

また、地域の実情に応じて、(エ)や火山災害などについても触れるようにする。

- | | | | | |
|---|-------|--------|-----------|--------|
| ① | ア 地割れ | イ 二次災害 | ウ 緊急地震速報 | エ 気象災害 |
| ② | ア 地割れ | イ 激甚災害 | ウ 緊急地震速報 | エ 河川災害 |
| ③ | ア 地滑り | イ 二次災害 | ウ 緊急速報メール | エ 河川災害 |
| ④ | ア 地滑り | イ 激甚災害 | ウ 緊急地震速報 | エ 気象災害 |
| ⑤ | ア 地割れ | イ 二次災害 | ウ 緊急速報メール | エ 気象災害 |

19

- (4) 次の文は、「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成30年7月 文部科学省)における、様々な保健活動や社会的対策についての記述の一部である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて理解できるようにする。その際、(ア)などの民間の機関や、(イ)・非政府組織の諸活動、(ウ)などの国際機関等の活動について、(エ)の考え方に基づくものも含めて触れるようにする。また、このような活動や対策を充実させるためには、一人一人がそれらを理解し支えることが重要であることに触れるようにする。

- | | | | | | | | |
|-----|--------|---|-----------|---|--------|---|-------------|
| ① ア | 日本赤十字社 | イ | 独立行政法人 | ウ | 世界保健機関 | エ | セルフメディケーション |
| ② ア | 日本WHO | イ | 特定非営利活動法人 | ウ | 国際協力機構 | エ | ヘルスプロモーション |
| ③ ア | 日本赤十字社 | イ | 特定非営利活動法人 | ウ | 世界保健機関 | エ | ヘルスプロモーション |
| ④ ア | 日本WHO | イ | 独立行政法人 | ウ | 世界保健機関 | エ | セルフメディケーション |
| ⑤ ア | 日本赤十字社 | イ | 特定非営利活動法人 | ウ | 国際協力機構 | エ | ヘルスプロモーション |

20

- (5) 次の文は、「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成30年7月 文部科学省)における、生涯を通じる健康の思考力、判断力、表現力等の例示の一部である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や(ア)の向上に向けて、(イ)の活用方法を整理すること。
- ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と(ウ)を評価すること。
- ・働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、(ア)の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用すること。

- | | | | | | |
|-----|------|---|------------|---|--------|
| ① ア | 生活の質 | イ | 保健・医療サービス | ウ | 行政サービス |
| ② ア | 生活の質 | イ | 保健・医療サービス | ウ | 社会的対策 |
| ③ ア | 生活習慣 | イ | 保健所・保健センター | ウ | 行政サービス |
| ④ ア | 生活習慣 | イ | 保健所・保健センター | ウ | 社会的対策 |
| ⑤ ア | 生活の質 | イ | 保健所・保健センター | ウ | 行政サービス |

21

- (6) 次の文は、日常的な応急手当について説明したものである。下線部の a～c の正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

出血している場合には止血を行う。清潔な布などを当てた上から、傷口を強く圧迫して止血をする。
a 間接圧迫止血法が有効であり、多くの場合はこの方法で出血は止まる。

脱臼や骨折が疑われる場合には、患部を安静に保つために b 挙上を行う。痛みを軽くするとともに、患部やその周囲の組織をさらなる傷害から守る。

傷病者に適した体位を確保することは、呼吸や c 血液の循環を保ち、苦痛をやわらげ、症状の悪化を防ぐのに有効である。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | a | ○ | b | ○ | c | × |
| ② | a | × | b | × | c | ○ |
| ③ | a | ○ | b | ○ | c | ○ |
| ④ | a | ○ | b | × | c | × |
| ⑤ | a | × | b | ○ | c | × |

22

- (7) 次の文は、ストレスへの対処の仕方の一つである、リラクセーションの方法について説明したものである。下線部の a～c の正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

・漸進的筋弛緩法は、筋肉の緊張と弛緩を繰り返し行うことでリラックスする方法である。各部位の筋肉について意識しながら、a 60秒間ほど力を入れて緊張させたあと、15秒ほど時間をかけて脱力・弛緩する。

・腹式呼吸法は、体の力を抜いたまま、b 鼻からゆっくり息を吐く。その際、背筋を伸ばし c 下腹部に手を当てておく。次に、c 下腹部の力を緩めて鼻から息を自然に吸う。これを、5分から10分ほど繰り返す。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | a | ○ | b | ○ | c | ○ |
| ② | a | ○ | b | ○ | c | × |
| ③ | a | × | b | × | c | ○ |
| ④ | a | × | b | ○ | c | × |
| ⑤ | a | ○ | b | × | c | ○ |

23

- (8) 次の文は、心肺蘇生法について説明したものである。下線部の a～c の正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

心肺蘇生法の方法として、胸骨圧迫、人工呼吸、AEDによる除細動がある。

胸骨圧迫では、救助者は傷病者の横に膝をつき、胸骨の下半分に手のひらのつけ根を置く。もう一方の手をその上に重ね、重ねた手の指を組む。垂直に体重が加わるよう両肘をまっすぐに伸ばし、肩が圧迫部位の a ななめ45度 になるような姿勢をとり、傷病者の胸が約5cm沈みこむ程度の強さで圧迫する。

人工呼吸では、傷病者の額をおさえながら、胸側の手の指先を傷病者のあごの先端の硬い部分に当てて持ち上げる。救助者は b 中腰 の姿勢のまま、額をおさええているほうの手の親指と人さし指で傷病者の鼻をしっかりとつまみ、鼻孔をふさぐ。救助者は息を吸い込んだ後に口を開け、息が漏れないように傷病者の口をしっかりとおおう。およそ c 5秒 かけて、傷病者の胸があがるのが見てわかる程度に息を吹き込む。

- ① a ○ b ○ c ×
 ② a × b × c ○
 ③ a ○ b ○ c ○
 ④ a × b × c ×
 ⑤ a × b ○ c ×

24

- (9) 次の文は、精神疾患の治療について説明したものである。下線部の a～c の正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

治療の際には、言語を介して心理的な支援を行う a カウンセリング や、抗うつ薬や b キノホルム剤 などによる薬物療法が行われる。また、身体と精神の健康状態は互いに強く影響しあっているため、身体的コンディションの調整も精神機能の回復には欠かせない。精神疾患のために、治療に対する同意能力に障害が生じたり、自傷や他人に害を与えたりすることがある。この場合には、本人の同意にもとづかない医療をおこなう必要が生じることもある。そのような医療行為は c 健康保険法 により、専門の医師の判断のもとに行われる。

- ① a ○ b × c ×
 ② a × b × c ○
 ③ a ○ b ○ c ○
 ④ a × b × c ×
 ⑤ a × b ○ c ○

25

- (10) 次の文は、LGBTQについて説明したものである。下線部の a～c の正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

LGBTは、女性同性愛者、男性同性愛者、両性愛者、トランスジェンダーの各単語の頭文字を組み合わせた a セクシュアル・マイノリティ の総称の一つである。前三者は主として b 性自認 にかかわるものであり、トランスジェンダーは c 性的指向 にかかわるものである。性のあり方は多様でLGBTだけでは割り切れない人も存在し、不明もしくは決めていないという意味でQ（Questioningなど）を加えてLGBTQという言葉も用いられる。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | a | ○ | b | ○ | c | × |
| ② | a | × | b | × | c | ○ |
| ③ | a | ○ | b | ○ | c | ○ |
| ④ | a | ○ | b | × | c | × |
| ⑤ | a | × | b | ○ | c | × |

(11) 次の図は、日本スポーツ振興センターの示している熱中症への対応についてのフローチャートである。

ア～エにあてはまるものの適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|---------|---|-----------|---|------|
| ① | ア | 筋肉痛 | イ | 意識障害の有無 | ウ | 水分摂取ができるか | エ | 経過観察 |
| ② | ア | 筋肉痛 | イ | 言語障害の有無 | ウ | 栄養補給ができるか | エ | 絶対安静 |
| ③ | ア | けいれん | イ | 意識障害の有無 | ウ | 栄養補給ができるか | エ | 経過観察 |
| ④ | ア | 筋肉痛 | イ | 言語障害の有無 | ウ | 水分摂取ができるか | エ | 絶対安静 |
| ⑤ | ア | けいれん | イ | 言語障害の有無 | ウ | 水分摂取ができるか | エ | 経過観察 |

(12) 次の図は、スキャモンの発育曲線である。ア～エにあてはまるものの適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ① | ア | 神経型 | イ | リンパ型 | ウ | 一般型 | エ | 生殖腺型 |
| ② | ア | リンパ型 | イ | 一般型 | ウ | 神経型 | エ | 生殖腺型 |
| ③ | ア | リンパ型 | イ | 神経型 | ウ | 一般型 | エ | 生殖腺型 |
| ④ | ア | 生殖腺型 | イ | 神経型 | ウ | 一般型 | エ | リンパ型 |
| ⑤ | ア | 一般型 | イ | 神経型 | ウ | リンパ型 | エ | 生殖腺型 |

- (13) 次の図は、日本におけるがんの要因を示したグラフである。ア～エにあてはまるものの適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- | | | | | |
|---|--------|--------|--------|--------|
| ① | ア 感染 | イ 受動喫煙 | ウ 運動不足 | エ 塩分摂取 |
| ② | ア 運動不足 | イ 感染 | ウ 塩分摂取 | エ 受動喫煙 |
| ③ | ア 受動喫煙 | イ 塩分摂取 | ウ 感染 | エ 運動不足 |
| ④ | ア 受動喫煙 | イ 感染 | ウ 塩分摂取 | エ 運動不足 |
| ⑤ | ア 塩分摂取 | イ 感染 | ウ 受動喫煙 | エ 運動不足 |

(14) 次の表は、感染症について分類したものである。ア～エにあてはまるものの適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- | | | | |
|-------------|-----------|-----------|-------|
| ① ア 結核 | イ 風しん | ウ インフルエンザ | エ コレラ |
| ② ア インフルエンザ | イ コレラ | ウ 結核 | エ 風しん |
| ③ ア コレラ | イ インフルエンザ | ウ 風しん | エ 結核 |
| ④ ア インフルエンザ | イ 結核 | ウ 風しん | エ コレラ |
| ⑤ ア インフルエンザ | イ 風しん | ウ 結核 | エ コレラ |

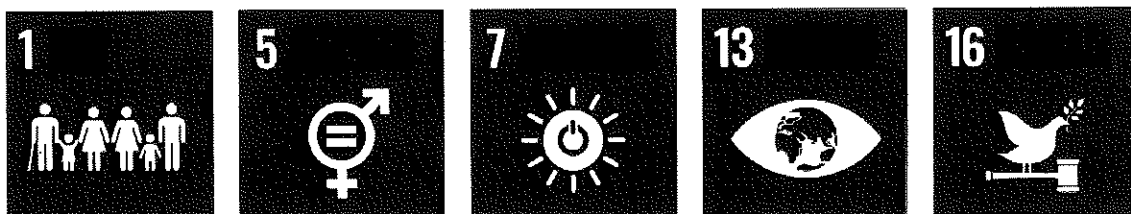
- (15) 次の図は、「令和4年 国民健康・栄養調査結果の概要」（厚生労働省）で示されている、喫煙している者が使用しているたばこ製品の種類を表したグラフである。その説明として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- ① 全体的には、紙巻たばこを使用している者の方が、加熱式たばこを使用している者より多い。
- ② 男性では、50歳以上で紙巻きたばこの使用の割合が7割以上である。
- ③ 女性では、20歳～29歳で加熱式たばこの使用の割合が一番高い。
- ④ 加熱式たばこは、女性よりも男性の方が使用している割合が高い。
- ⑤ 男性女性どちらも、70歳以上では、加熱式たばこよりも、紙巻きたばこの使用割合の方が高い。

31

- (16) 次の図は、SDGsの17のゴールのうち5つを示したものである。番号と目標を示す言葉の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

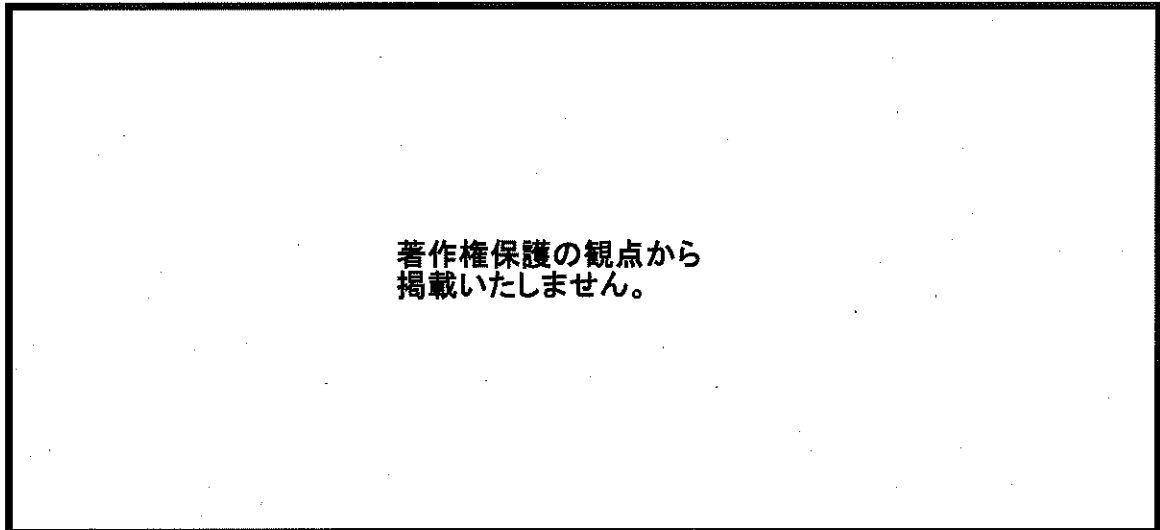


- ① 1：飢餓をゼロに
- ② 5：すべての人に健康と福祉を
- ③ 7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ④ 13：海の豊かさを守ろう
- ⑤ 16：陸の豊かさを守ろう

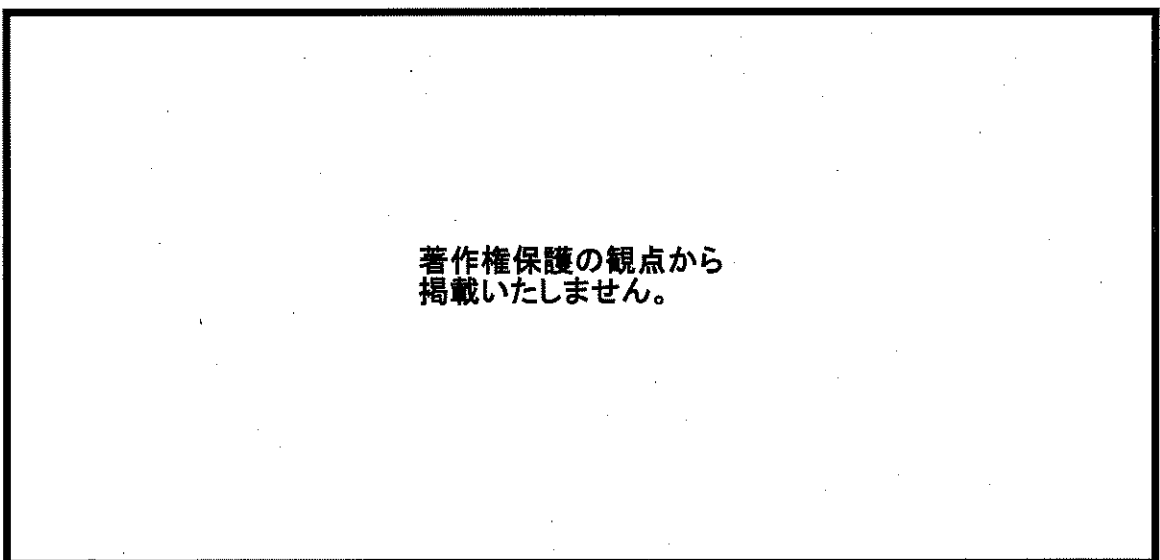
32

(17) 次の図は、「令和6年版 交通安全白書」(内閣府)の65歳以上の状態別交通事故死者数について表したグラフである。その説明として適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

■65歳以上の状態別交通事故死者数の推移



■65歳以上の状態別交通事故死者数の割合の推移



- ① 交通事故死者数は、すべての状態において増加傾向にある。
- ② 事故の状態は、自動車乗車中の割合が最も高い。
- ③ 事故の状態は、年々自動車乗車中の方の割合が高くなってきている。
- ④ 令和に入り、交通事故死者数が増加してきている。
- ⑤ 歩行者の死者数の割合は横ばいだが、自転車乗車中の割合が高くなっている。

【5】体育分野に関する内容について、次の問いに答えよ。

(1) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)に関する内容における、第3学年の体づくり運動の知識の例示についての記述の一部である。適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 体づくり運動の意義には、心と体をほぐし、体を動かす楽しさや心地よさを味わう意義があること。
- ② 「体ほぐしの運動」には、「心と体の関係や心身の状態に気付く」、「仲間と積極的に関わり合う」というねらいに応じた行い方があること。
- ③ 運動を安全に行うには、関節への負荷がかかりすぎないようにすることや軽い運動から始めるなど、徐々に筋肉を温めてから行うこと。
- ④ 体の動きを高めるには、適切な強度、時間、回数、頻度などを考慮して組み合わせる方法があること。
- ⑤ 運動の組合せ方には、効率のよい組合せとバランスのよい組合せがあること。

34

(2) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)に関する内容における、「A. 体づくり運動 イ 体の動きを高める運動」の巧みな動きを高めるための運動の例示についての記述である。第1学年及び第2学年の例示として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① いろいろなフォームで様々な用具を用いて、タイミングよく跳んだり転がしたりすること。
- ② 大きな動作で、ボールなどの用具を、力を調整して投げたり受けたりすること。
- ③ 人と組んだり、用具を利用したりしてバランスを保持すること。
- ④ 床やグラウンドに設定した様々な空間をリズムカルに歩いたり、走ったり、跳んだり、素早く移動したりすること。
- ⑤ 大きくリズムカルに全身や体の各部位を振ったり、回したり、ねじったり、曲げ伸ばしたりすること。

35

(3) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)に関する内容における、器械運動の「知識」の例示についての記述である。第1学年及び第2学年の例示として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 器械運動は、種目に応じて多くの「技」があり、技の出来映えを競うことを楽しむ運動として多くの人々に親しまれてきた成り立ちがあること。
- ② 自己の動きや仲間の動き方を分析するには、自己観察と他者観察などの方法があること。
- ③ 技の名称は、運動の基本形態を示す名称と、運動の経過における課題を示す名称によって名づけられていること。
- ④ 技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあること。
- ⑤ 器械運動は、それぞれの種目や系などにより主として高まる体力要素が異なること。

36

(4) 次の図は、マット運動の組合せ技を示したものである。技の順番として適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- ① 倒立前転 → 跳び1/4回ひねり → 開脚後転 → 正面水平立ち → ロンダート
- ② 倒立前転 → 跳び1/2回ひねり → 伸膝後転 → 片足旋回 → 側方倒立回転
- ③ 倒立前転 → 跳び1/4回ひねり → 開脚後転 → 正面水平立ち → 側方倒立回転
- ④ 倒立前転 → 跳び1/2回ひねり → 伸膝後転 → 片足旋回 → ロンダート
- ⑤ 倒立前転 → 跳び1/2回ひねり → 伸膝後転 → 正面水平立ち → ロンダート

37

- (5) 次の図は、陸上競技の走り幅跳びの踏切位置である。有効及び無効の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ① | ア | 有効 | イ | 有効 | ウ | 無効 | エ | 無効 |
| ② | ア | 無効 | イ | 有効 | ウ | 無効 | エ | 有効 |
| ③ | ア | 無効 | イ | 有効 | ウ | 無効 | エ | 無効 |
| ④ | ア | 有効 | イ | 無効 | ウ | 有効 | エ | 無効 |
| ⑤ | ア | 無効 | イ | 無効 | ウ | 無効 | エ | 有効 |

38

- (6) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)に関する内容における、陸上競技の「思考力、判断力、表現力等」の例示についての記述である。第1学年及び第2学年の例示として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えること。
- ② 提供された練習方法から、自己の課題に応じて、動きの習得に適した練習方法を選ぶこと。
- ③ 練習や競争する場面で、最善を尽くす、勝敗を受け入れるなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えること。
- ④ ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返ること。
- ⑤ 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えること。

39

- (7) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)に関する内容における、水泳の「学びに向かう力、人間性等」の例示についての記述である。第3学年の例示として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 水泳の学習に自主的に取り組もうとすること。
- ② 勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする。
- ③ 仲間と互いに合意した役割について自己の責任を果たそうとすること。
- ④ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする。
- ⑤ バディやグループで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて自己の活動を振り返ること。

40

- (8) 次の文は、「学校体育実技指導資料 第4集 水泳指導の手引(三訂版)」(平成26年3月 文部科学省)におけるバディの組合せに関する記述である。下線部のa～cの正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

バディシステムは安全を確かめ合うことだけが目的ではなく、互いに進歩の様子を確かめ合ったり、a 欠点を矯正する手助けとなることもねらいとしている。さらに、互いに助け合ったり、b 人間関係を深め合うこともねらいとしているので、その組合せには十分な配慮が必要である。指導のねらいに応じて、泳力が同じくらいの者、c 初心者同士などの組合せを工夫することが大切である。

- ① a ○ b × c ×
- ② a × b × c ○
- ③ a ○ b ○ c ○
- ④ a × b × c ×
- ⑤ a ○ b ○ c ×

41

- (9) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)の内容における、球技の「技能」の「空間を作り出すなどの動き」の例示についての記述である。第3学年の例示として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① パスを出した後に次のパスを受ける動きをすること。
- ② ボール保持者が進行できる空間を作り出すために、進行方向から離れること。
- ③ ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ること。
- ④ パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くこと。
- ⑤ ゴール前の空いている場所をカバーすること。

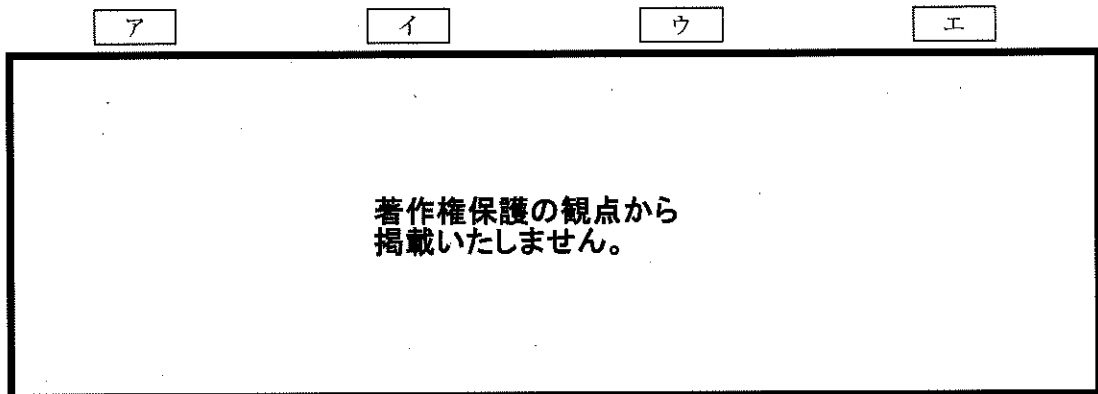
42

- (10) 次の文は、バレーボールのルールに関する記述である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① サービスをするとき、ローテーションの順番通りの位置を守らなかったときは、ポジショナルフォルトという反則になる。
- ② ボールをプレーする動作中に、両アンテナ間のネットに触れると、タッチネットの反則になるが、アンテナに触れるのは反則にならない。
- ③ ファーストレフェリーが笛を吹いて8秒以内にサービスを打たなかったときは、ディレイインサービスという反則になる。
- ④ タイムアウトは1セットに2回要求できる。
- ⑤ プレーヤーの交代は1セットに6回できる。ただし、リベロプレーヤーとの交代は除く。

43

- (11) 次の図は、剣道における打突の場面である。有効打突となる場合と有効打突とならない場合の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。



- | | |
|------------------|------------------|
| ① 有効打突となる： ア | 有効打突とならない： イ ウ エ |
| ② 有効打突となる： ア イ | 有効打突とならない： ウ エ |
| ③ 有効打突となる： ア ウ | 有効打突とならない： イ エ |
| ④ 有効打突となる： ア イ ウ | 有効打突とならない： エ |
| ⑤ 有効打突となる： イ | 有効打突とならない： ア ウ エ |

44

- (12) 次の文は、ソフトボールのルールに関する記述である。適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 投手は球審がプレーを指示した後、またはボールを受け取ったら15秒以内に次の投球をしなければならない。
- ② 促進ルールは、9回からスタートし、各イニングの表裏とも、攻撃側がその回の第1打者の前位となる打者を無死2塁走者としてプレーを始める。
- ③ 打者は、主審が「プレーボール」を宣言したのち、8秒以内に打撃姿勢をとらなければならない。
- ④ 投球規定に違反すると不正投球となる。不正投球が宣告されるとボールデッドとなり、打者にはワンボールが与えられ、走者はワンベース進塁できる。
- ⑤ チームの遅刻、プレー継続拒否、ゲームの引き延ばしや故意のルール違反があった時は、没収ゲームが宣告され、9対0のスコアで過失のないチームが勝ちとなる。

45

(13) 次の文は、体操競技の行い方についての記述である。適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 女子は、跳馬・段違い平行棒・平均台・ゆか・つり輪の順に5種目について自由演技を行う。
- ② 女子は、跳馬・段違い平行棒・平均台・ゆかの順に4種目について自由演技を行う。
- ③ 女子は、跳馬・段違い平行棒・平均台・ゆか・つり輪・鉄棒の順に6種目について自由演技を行う。
- ④ 男子は、ゆか・あん馬・つり輪・跳馬・平行棒・平均台の順に6種目について自由演技を行う。
- ⑤ 男子は、鉄棒・ゆか・あん馬・つり輪・跳馬・平行棒の順に6種目について自由演技を行う。

46

(14) 次の文は、水泳競技の個人メドレーとメドレーリレーの泳法の順序である。適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 個人メドレー : バタフライ → 背泳ぎ → 平泳ぎ → 自由形
- ② 個人メドレー : 背泳ぎ → バタフライ → 平泳ぎ → 自由形
- ③ 個人メドレー : バタフライ → 平泳ぎ → 背泳ぎ → 自由形
- ④ メドレーリレー: バタフライ → 背泳ぎ → 平泳ぎ → 自由形
- ⑤ メドレーリレー: 平泳ぎ → バタフライ → 背泳ぎ → 自由形

47

(15) 次の文は、柔道における一本になる場合の記述である。下線部の a～c の正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

投げ技では、技をかける相手が攻撃してくる技を返して、最適な理合いを伴う相応な技術で仰向けに相手を投げたときに、一本になる。判定基準として、a スピード、b 大きさ、背中が着く、着地の終わりまでしっかりコントロールしているか、が挙げられる。なお、投げられたとき、故意にブリッジした場合は c 一本にならない。

- ① a ○ b × c ×
- ② a × b × c ○
- ③ a ○ b ○ c ○
- ④ a × b × c ×
- ⑤ a ○ b ○ c ×

48

- (16) 次の図は、バスケットボールの審判のジェスチャーである。図と名称の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

ア

イ

ウ

エ

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- | | | | | | | | |
|-----|----------|---|--------|---|---------|---|--------|
| ① ア | トラベリング | イ | ハッキング | ウ | ホールディング | エ | チャージング |
| ② ア | ダブルドリブル | イ | ブロックング | ウ | プッシング | エ | チャージング |
| ③ ア | ダブルコンタクト | イ | ブロックング | ウ | プッシング | エ | タイムアウト |
| ④ ア | ダブルドリブル | イ | ハッキング | ウ | タイムアウト | エ | プッシング |
| ⑤ ア | ダブルコンタクト | イ | ハッキング | ウ | ブロックング | エ | プッシング |

49

- (17) 次の文は、硬式テニスのルールに関する記述である。適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① ラリー中のボールがネットやポストに触れ、しかも正しく相手コートに入っても有効な返球とならない。
- ② 自分のコート内のボールを正しく打った後、自分の体やラケットがネットを越した時は、有効な返球とならない。
- ③ ボールがポストの外側をまわって正しいコート内に入った時は、有効な返球となる。
- ④ 手から離れたラケットにボールが当たって返球した時は、有効な返球となる。
- ⑤ ボールがネットを越してくる前に直接返球したときは、有効な返球となる。

50

- (18) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)の内容における「武道 相撲[第1学年及び第2学年]」の基本動作についての記述である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 姿勢と組み方では、相手の動きに応じやすい自然体で組むこと。
- ② 四股、腰割りでは、重心を低くした動きをすること。
- ③ 中腰の構えでは、重心を低くした姿勢をとること。
- ④ 運び足では、低い重心を維持して、すり足で移動すること。
- ⑤ 仕切りからの立ち合いでは、相手と動きを合わせること。

51

- (19) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)の内容における、「ダンス」のフォークダンスと発祥国についてである。適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

<フォークダンス>

- ア ヒンキー・デインキー・バーリ・プー
イ ハーモニカ
ウ オスローワルツ
エ ラ・クカラーチャ

<発祥国>

- A アメリカ
B イスラエル
C イギリス
D メキシコ

- ① アーA イーB ウーC エーD
② アーD イーB ウーA エーC
③ アーD イーC ウーB エーA
④ アーD イーC ウーA エーB
⑤ アーA イーB ウーD エーC

52

- (20) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)の内容における、「ダンス」の第3学年の指導内容についての記述の一部である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の正しい組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

ア 創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、(ア)のある動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ること。
イ フォークダンスでは、日本の民踊や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと(イ)で踊ること。
ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化と(ウ)を付けて、リズムに乗って全身で踊ること。

- ① ア 緩急強弱 イ 隊形 ウ まとまり
② ア 緩急強弱 イ 組み方 ウ まとまり
③ ア 変化 イ 隊形 ウ 流れ
④ ア 変化 イ 組み方 ウ まとまり
⑤ ア 緩急強弱 イ 組み方 ウ 流れ

53

(21) 次の文は、パラリンピックススポーツ（ボッチャ、シッティングバレー、車いすバスケットボール、車いすラグビー、ゴールボール）についての記述である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① ボッチャは、個人もしくはチームが、赤・青のボールをそれぞれ6球ずつ投げて、白色の目標球（ジャックボール）に、いかに近づけるかを競うスポーツである。
- ② シッティングバレーボールは、座位で床に臀部の一部が接触したままプレーすることが特徴である。コート上で2つのチームがネットをはさんで相対し、手でボールを返球し合って、一定の得点に早く到達することを競い合うネット型のスポーツである。
- ③ 車いすバスケットボールは、バスケットボールと同じ広さのコート、同じ高さのゴール、同じボールを使うなど、共通している点が多いスポーツである。バスケットボールではボールを保持した状態で3歩以上動くとトラベリングという反則になるが、車いすバスケットボールでもボールを保持したまま3回以上漕ぐとトラベリングの反則になる。
- ④ 車いすラグビーは、試合は4対4で行われ、選手交代に制限はない。選手にはそれぞれ障がいの程度によって点数がつけられており、4人の持ち点の合計ルールで決められた点数以下になるようにチームを編成しなければならない。ボールを所持している選手は膝の上にボールを乗せて車いすを何回でもこぐことができるが、5秒以内にドリブルまたはパスをしなくてはならない。一般のラグビーと違い、前方へのパスも認められている。
- ⑤ ゴールボールは、1チームは最大6名・ベンチコーチが3名で編成される。コート上には選手3名が出場し、選手は全員アイシェード（目隠し）を装着し、見えない状態でプレーする。鈴の入ったボールを互いに投げ合い、得点を狙う対戦型競技である。選手は音を頼りに競技するため、観客は競技の妨げにならないよう、プレー中に声を出して応援することができない。

【6】 体育理論に関する内容について次の問いに答えよ。

- (1) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における、第1学年及び第2学年の「体育理論」の「運動やスポーツの多様性」の知識の内容についての記述の一部である。下線部 a～c の正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

運動やスポーツには、「する、見る、支える、知る」などの多様な関わり方があることを理解できるようにする。

運動やスポーツには、直接「行うこと」に加えて、「見ること」には、例えば、テレビなどのメディアや競技場等での観戦を通して a 充実感 を味わったり、研ぎ澄まされた質の高い動きに感動したりするなどの多様な関わり方があること、「支えること」には、運動の学習で仲間の学習を支援したり、大会や競技会の b 企画 をしたりするなどの関わり方があること、「知ること」には、例えば、運動やスポーツの歴史や記録などを書物や c インターネット などを通して調べる関わり方があること、などの多様な関わり方があることを理解できるようにする。

- ① a ○ b × c ×
 ② a × b ○ c ○
 ③ a × b × c ×
 ④ a ○ b ○ c ○
 ⑤ a × b ○ c ×

55

- (2) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における、「体育理論」の「文化としてのスポーツの意義 ア 知識」の内容についての記述の一部である。下線部 a～c の正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

現代生活におけるスポーツは、生きがいのある豊かな人生を送るために必要な健やかな心身、豊かな交流や伸びやかな a 自己実現 の機会を提供する重要な文化的意義をもっていることを理解できるようにする。

また、国内外には、スポーツの文化的意義を具体的に示した b 憲章 やスポーツの c 振興 に関する計画などがあることにも触れるようにする。

- ① a ○ b × c ×
 ② a ○ b × c ○
 ③ a × b × c ×
 ④ a × b ○ c ○
 ⑤ a × b ○ c ×

56

- (3) 次の文は、「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成30年7月 文部科学省)における、「体育理論」の「運動やスポーツの効果的な学習の仕方 ア 知識」の内容についての記述の一部である。下線部 a～c の正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

運動やスポーツの技能の上達過程を試行錯誤の段階、意図的な調整の段階及び a 自動化 の段階の三つに分ける考え方があること、また、これらの段階に応じて、効果的に上達を図るためには、良い動きを参考として自己の課題を設定すること、課題解決のための自己に適した練習方法を選択すること、自己観察や他者観察を通して課題を発見し解決すること、上達に応じて次の課題を設定することといった取り組み方が運動の継続に有効であることを理解できるようにする。

なお、技能の獲得には、b 一定の期間がかかることを踏まえ、解決すべき課題を意識した上で、繰り返し取り組むことが安定した技能の定着につながることに理解できるようにする。

その際、技能の上達過程は、各段階で上達の速度が異なること、c プラトーやスランプの状態があることにについても触れるようにする。

- ① a ○ b × c ×
- ② a ○ b × c ○
- ③ a × b × c ×
- ④ a ○ b ○ c ○
- ⑤ a × b ○ c ×

57

- (4) 次の文は、パラリンピックの価値に関する記述である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 勇気：マイナスの感情に向き合い、乗り越えようと思う精神力
- ② 強い意志：困難があっても、諦めず限界を突破しようとする力
- ③ インスピレーション：人の心を揺さぶり、駆り立てる力
- ④ 公平：多様性を認め、創意工夫をすれば、誰もが同じスタートラインに立てることを気づかせる力
- ⑤ 卓越：スポーツに限らず人生においてベストを尽くす力

58

(5) 次の文は、東京2020オリンピック競技大会以降に追加された競技について説明したものである。追加競技として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① ブレイキンは、1970年代のアメリカ・ニューヨークのサウスブロンクス地区が発祥のストリートダンスである。2018年にブエノスアイレスで開催されたユースオリンピック競技大会で登場し、オリンピックでも実施されることになった。
- ② サーフィンのサーフボードには、9フィート（約2.7m）以上のロングボードや、6フィート（約1.8m）前後で先端がとがっているショートボードなど、さまざまな種類がある。2024年パリオリンピックでは細かいターンやダイナミックな技を可能にするショートボードで競技が行われる。
- ③ スケートボードの起源にはいくつかの説があるが、1940年代にアメリカ西海岸で、木の板に鉄の車輪を取り付けて滑る遊びが始まりとされている。オリンピックでのスケートボードは、街の風景を思わせるコースで技を競う「ストリート」と、複雑な形状のコースで技を競う「パーク」の2つのイベントがあり、男女別に競技が行われる。
- ④ スポーツクライミングには、同じ条件で設置された高さ15mの壁を2人の選手が同時に登り速さを競う「スピード」、高さ5メートル以下の壁に設定された複数のボルダー（コース）を、制限時間内にいくつ登れたかを競う「ボルダー」、制限時間内に高さ12m以上の壁のどの地点まで登れるかを競う「リード」の3種目がある。
- ⑤ セーリングは海面で実施され、自然環境によって大きく試合展開を左右される競技の一つである。レースは、海面に設置されたマークと呼ばれるブイを決められた回数、決められた順序で回りながら、フィニッシュラインまでの着順を競う。種目は使用する艇（ヨット）の種類によって分けられ、どの種目もフィニッシュの順位の高いチームほど低い点数がつく。このレースを10～12回行い、その合計点数の低い10艇が「メダルレース」または「メダルシリーズ」と呼ばれる最終レースを戦うことができる。

- (6) 次の文は、運動のコントロールに関わる脳部位と、それぞれの関与の仕方について説明したものである。脳部位の位置と説明の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

【説明】

- A 初心者のはきはぎごちなかった運動が、練習を重ねるにつれて滑らかになり、無意識のうちに運動が遂行できるようになる。
- B 野球のバッティングでバットを振ったり、途中でバットを止めたりする際に活動するなど、運動の計画と実行に関与する。
- C 野球で、相手の守備位置やボールの動きを視覚的に知覚する際に関与する。
- D 野球で、審判のコールや打球の音を聞くなど聴覚に関与する。
- E 野球で、体の内部の感覚をもとにして打者自身の姿勢や手足の位置を知覚する際に関与する。

- | | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|
| ① | アーB | イーE | ウーD | エーA | オーC |
| ② | アーA | イーE | ウーC | エーB | オーD |
| ③ | アーC | イーD | ウーE | エーA | オーB |
| ④ | アーD | イーE | ウーB | エーC | オーA |
| ⑤ | アーE | イーB | ウーA | エーD | オーC |